

# 動物園水族館における傷病鳥の受け入れ体制及び 飼育下繁殖等について

---

東京都葛西臨海水族園  
野島 大貴

- ・ 2022年4月に当面10年間における中期目標を設定したロードマップが策定  
⇒ (3) 飼育下繁殖：傷病個体の受け入れ態勢構築、普及啓発



・ これらロードマップに記載がある事項について、ウミガラスの保全活動に関わる動物園水族園の役割や意向を確認するヒアリングを2022年度に実施

## 対象園館

- ・ ウミガラス飼育園館：アクアマリンふくしま、新潟市水族館マリニピア日本海、葛西臨海水族園
- ・ 協力園館：札幌市円山動物園

# ヒアリング内容

## 国内飼育状況（2022年12月31日時点）

施設名	飼育数	自然繁殖	受精卵輸送	人工孵化	人工育雛
葛西臨海水族園	♂12 ♀14 (26)	○	○	○	○
アクアマリンふくしま	♂4 ♀3 (7)	×	×	○	○
新潟市水族館マリニピア日本海	♂2 ♀2 (4)	×	×	○	○
合計	♂18 ♀19 (37)				

- ・公益社団法人日本動物園水族館協会（JAZA）が毎年血統登録を実施
- ・JAZAで個体群統計学、遺伝学に基づく個体群管理を実施
- ・飼育下個体群は北大西洋亜種（*Uria aalge aalge*）

# ヒアリング内容

## 傷病鳥の受け入れ

施設名	個体の受入可否	卵の受入可否	ソフトリリース	輸送費用の負担
葛西臨海水族園	○	○	×	○
アクアマリンふくしま	○	○	×	○
新潟市水族館マリnpia日本海	○	○	×	△
円山動物園	×	×	×	×

- ・ 傷病鳥の状態（短期間で野生復帰するのか否か等）で受入条件が異なる
- ⇒ 受け入れ可能な3園館で連絡を取り合い、その状況次第で受入園館を選定
- ⇒ 連絡窓口は飼育下個体群の中心である「葛西臨海水族園」

# ヒアリング内容

## 傷病鳥の受け入れ課題

- ・ 検疫

⇒ 初期受入施設（北海道海鳥センター、ウトナイ湖野生鳥獣保護センター）で**14日間**の**初期検疫**を希望。基本的な糞便検査や鳥インフルエンザの簡易検査等。

- ・ 受け入れ時期

⇒ ウミガラスの繁殖期は気温が高く、**輸送に不適切**。事前に輸送方法や経路を検討しておく必要がある。

- ・ 傷病が回復したあとの対応

⇒ 輸送は鳥に負担を強いるため、早期に野生復帰が可能な場合は初期受入施設から移動しない方が得策だと思料する。中長期間の飼育が必要な場合に受け入れ可能な3園館に移動。その場合、飼育下では**筋力が低下する懸念**があるが、**ソフトリリース**などを行う**施設の確保が困難**。

- ・ 飼育亜種

⇒ 受け入れが必要になった場合、繁殖期に隔離するなど**確実に交雑しない対応**を事前に検討。

# ヒアリング内容

## 普及啓発

- ・ 情報共有の体制を構築
  - ⇒ 各園館、積極的な教育普及活動の展開を希望。  
企画展示、パネル展示、講演会等の開催は可能。  
保護増殖事業で得られる最新情報を迅速に共有できる体制の構築ができれば、各園で適宜発信をしていきたい。メーリングリストの作成、SNSの活用等。
- ・ 効果的な教育普及活動の検討
  - ⇒ ウミガラスは知名度が低く、普及効果は高くない。  
継続的な情報発信が必要ではあるが、その方法も検討しなければ普及効果は上がらないと思料する。ウミガラスもくらす地域の方からの声を大事にし、その声や取組を関係組織を通じてより広く、強く発信していける取組の充実が必要。